

3. 小水力は小集落の災害後に恩恵を与える

大災害を受けた地域は住民のストレスや孤独感、孤立感は強く残る。地域の水は先祖から引き継がれ、小水力発電があれば、電力会社の送電線が切れても心配なく各家庭に送られる。

農耕用のトラック自家用車の充電、公園道路、自衛会館、家庭、動物除けなどにも利用できる。余剰が出れば売ることもでき、利益が出て公的な資金にも使える「言うこと無し」である。

また、小水力の会合により、氏神の祭り、地蔵盆等により今まで村づくができたように、地域住む人々の意識を高め地域の融和もはかれる。そのうえ、地域のエネルギー自給率に貢献できる。

VIII おわりに

太陽光発電に関しては、国として大きいに進めたいと特別扱いされたのか、2009年から買取制度が運用され、再生可能エネルギーの目的量に達し、優等生となつたものの、現在は多くの問題を醸し、不安定化している。ここで小水力の更なる促進が望まれる。

小水力では、FIT認定制度以降の開発実績は殆どが1,000kW以下で
り、100kW、300kWに経済性の分岐点があるようで、置取価格を